

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 『國學院大學所蔵古典籍解題 中世散文文学篇』補遺

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 岳史 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/0002000653">https://doi.org/10.57529/0002000653</a>

## 『國學院大學所蔵古典籍解題 中世散文文学篇』補遺

山本 岳史

國學院大學研究開発推進機構校史・学術資産研究センターでは、平成二十五度に本学創立百三十周年記念事業の一環として『國學院大學所蔵古典籍解題 中世散文文学篇』（平成26年2月）を刊行した。本書は國學院大學図書館所蔵の貴重書、一般書のみならず、梧陰文庫や武田文庫、河野文庫などの特殊文庫、日本文学資料室収蔵資料まで、約三百点ある中世日本文学資料の書誌解題をまとめたものである。本書の刊行によって國學院大學所蔵の中世散文文学資料の全容を把握することが可能になった。

國學院大學は中世文学の様々なジャンルの作品を、幅広く且つ体系的に収蔵している（『國學院大學所蔵古典籍解題 中世散文文学篇』では各資料を、歴史文学関連、軍記物語関連、説話文学関連、鴨長明関連、卜部兼好関連、日記・紀行文学関連、芸能関連、室町時代物語・絵巻関連の八種に分類した）。これらの中には國學院大學にしか現存が確認されていない資料がいくつかある。國學院大學所蔵資料だけで中世文学のすべてを把握することはできないが、それでも約三百点の書誌解題を収めた本書を通覧すれば、ある程度中世文学の世界を展望することができる内容になっている。

本稿は、昨年度末から今年度にかけて新たに収蔵された資料を中心に取り上げた、『國學院大學所蔵古典籍解題 中世散文文学篇』の補遺篇に当たる。掲載資料は次の通りである。

●歴史文学

- 【1】神皇正統記 続神皇正統記 写本

●軍記物語

- 【2】保元物語 平治物語

元和・寛永中刊平假名古活字十二行本

●説話文学

- 【3】芳野拾遺物語 貞享三年版

●徒然草

- 【4】徒然草 貞享五年版

- 【5】徒然草 無刊記整版

- 【6】徒然草抄 寛文元年版

- 【7】徒然草集説 元禄十四版

【8】徒然草明汗稿 享保十二年版

●幸若舞曲

【9】やしま 奈良絵本

【10】十番切絵巻

●室町時代物語・絵巻

【11】貴船の本地 奈良絵本

【12】百鬼夜行絵巻 真珠庵本系統写本

【13】百鬼夜行絵巻 宮脇通赫画本

【14】松ゆつり葉絵巻

神皇正統記  
 大日本八神宮なり天祖よりめて奉成りて地日神宮く統也  
 傳入跡本家此此と此事有り天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 園といふなり神代は遺草なり天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 開闢の事あり天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 さつ法なり勅も奉成りて天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 志り此名あり根本此事なり天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 といふは陽神陰神は此事なり天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 て名傳りて奉成りて天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 名なり奉成りて天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 生法なり奉成りて天祖より奉成りて地日神宮く統也

北畠准后親房卿  
 神皇正統記  
 大永八年六月廿三日書之惠潤世三歳

右神皇正統記以常陸國六段田村六地藏寺本書寫校合

大永八年六月廿三日書之惠潤世三歳

右神皇正統記以常陸國六段田村六地藏寺本書寫校合

神皇正統記冒奥書

神皇正統記  
 大日本八神宮なり天祖よりめて奉成りて地日神宮く統也  
 傳入跡本家此此と此事有り天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 園といふなり神代は遺草なり天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 開闢の事あり天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 さつ法なり勅も奉成りて天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 志り此名あり根本此事なり天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 といふは陽神陰神は此事なり天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 て名傳りて奉成りて天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 名なり奉成りて天祖より奉成りて地日神宮く統也  
 生法なり奉成りて天祖より奉成りて地日神宮く統也

北畠准后親房卿  
 神皇正統記  
 大永八年六月廿三日書之惠潤世三歳

右神皇正統記以常陸國六段田村六地藏寺本書寫校合

神皇正統記冒頭

【1】神皇正統記 続神皇正統記 写本

(二一〇・一二〇／三)

〔外 題〕「神皇正統記 北畠准后親房卿 上(下)」

〔左肩原装無辺題簽・朱色地に金泥で草木を描く。〕

〔内 題〕「神皇正統記 北畠准后親房卿」(上卷)

〔神皇正統記〕(中卷)

下卷ナシ

〔目録題〕ナシ

〔尾 題〕ナシ

〔卷 冊〕三卷三冊

〔残欠状況〕完本

〔保存状況〕良好

〔装 訂〕袋綴(四つ目綴)

〔表 紙〕黄蘗色無地(原装)

〔表紙寸法〕縦二三・七糎×横一六・四糎

〔見返し〕本文共紙

〔料 紙〕楮紙

〈本文用字〉漢字平仮名交じり

〈一面行数〉十二行

〈字 高〉約一九・〇糎

〈 繪 〉ナシ

〈奥 書〉「明德五年<sup>甲戌</sup>三月十二日於坂本田中宿所

書寫畢／點校了輒不可流布之敢不可処聊

爾者也／法橋春全<sup>四八</sup>判／大永八季<sup>子戌</sup>六月

廿三日書之惠潤廿三歲／右神皇正統記以

常陸國六段田村六地藏寺本書寫校合」

（神皇正統記本奥書）

「神皇正統記至／後醍醐院令録之全部也

／光嚴院以來繼嗣奉加載之為補老後之忘

氣也匪敢為續集矣／小槻宿祢<sup>判</sup>／右續神

皇正統記以流布印本校合訖」（統神皇正

統記本奥書）

〈書写年代〉江戸時代後期

〈書入・貼紙〉本文傍に本文校訂に関する書入あり。

ミセケチ傍書あり。挿入符あり。不審

紙あり。（すべて墨書）

〈印 記〉「橘實成藏」（朱長方印・各冊題簽左下、

各冊表表紙見返し）

「笏湖文庫」（墨長方印・各冊最終丁ウ）

〈その他〉『神皇正統記』の後、一丁分の遊紙を挟み、

続けて『統神皇正統記』を写す。『神皇

正統記』『統神皇正統記』ともに群書類

従本の写し。

〈参 考〉『群書類従』第三輯帝王部

山田孝雄「神皇正統記諸本解説略」（『神

皇正統記述義』民友社 昭和7年）

岩佐正「神皇正統記伝本考」（『国文学攷』

35 昭和39年11月）

『六地藏寺本神皇正統記』（汲古書院 平

成9年）

のふとわらんせいふやらいのり  
 ひそくまかみかまを三皇五帝は乃爾とわさめめ  
 かく八元乃まことなるゆみあうれうのは物とて  
 衣かはん志者哉かへり又て清く徹うくゆゆ人地若  
 辰とあうて衣をうつけ辰をのれとくろくま  
 くまうくゆゆらんせいふやらいのり  
 ま事らふま事らふま事らふま事らふま事らふま  
 かりのまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 せうわあうくくくくくくくくくくくくくくくく  
 うかくれふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 をきやうむつ乃こすけふふふと云々明乃まやうか  
 八うあうをらうまやうをまらん使をれ人とうふ

平治物語冒頭

保元物語序  
 それをきかひしくたまふてそなんせうの——人  
 んんせいの天下とくくせひすとりのまろくまろ  
 てせなるまふくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 ぬわふはうかき辰各折ゆるとまの則四處をそ  
 小)てけうくくおとるま事ふそそそそそそそそ  
 たふふふあ辰あハすかち國今まそそそそそそ  
 辰とまそそそそそそそそそそそそそそそそ  
 あひまをゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 うまのりうまに天下と就ゆまひんせにうて  
 うれ小政ハみふちふまそそそそそそそそそそ  
 圖敷とくくくくらんらんこれうふあうりあうむ

保元物語序

【2】保元物語 平治物語

元和・寛永中刊平仮名古活字十二行本

(貴四四一一〜四四一六)

〈外 題〉「保元物語 上(〜下)」

「平治物語 上(〜下)」

(左肩後補無辺書題簽)

〈内 題〉ナシ

〈目録題〉「保元物語卷上目録(〜下)」

「平治物語卷上目録(〜下)」

〈尾 題〉「保元物語卷上終(〜下)」

「平治物語卷上終(〜下)」

〈巻 冊〉六卷六冊

〈残欠状況〉完本

〈保存状況〉良好

〈装 訂〉袋綴(四つ目綴)

〈表 紙〉紙 焦茶色無地(原装)。押し八双あり。

〈表紙寸法〉縦二八・〇糎×横一九・八糎

〈見返し〉本文共紙

〈料 紙〉楮紙

〈本文用字〉漢字平仮名交じり

〈一面行数〉十二行

〈匡 郭〉ナシ（字高・二一・二種）

〈版 心〉ナシ

〈 絵 〉ナシ

〈刊 記〉ナシ

〈書入・貼紙〉上欄に書入あり。

下巻後表紙見返し「安政六<sup>末</sup>年六月日

／江戸出府子良求之」（墨書）

〈印 記〉「金合／文庫」（朱方印・各冊冒頭）

「小林／藏書」（朱方印・各冊冒頭）

「百井文庫」（墨円印・各冊冒頭）

「月明莊」（朱方印・各冊末尾）

「江戸四日市／古今珍書僧／達磨屋五一」

（朱方印・平治物語末尾）

〈その他〉川瀬一馬氏の分類（十一種に分類）によ

れば、本書は第七種にあたる。江戸時代

〈参 考〉

後期を代表する書肆、達磨屋五一（二八一七～一八六八）の旧蔵本。

川瀬一馬『増補古活字版之研究』（日本

古書籍商会 昭和42年）

大谷貞徳「國學院大學所藏『保元・平治

物語』書誌解題」（松尾葦江編『平成

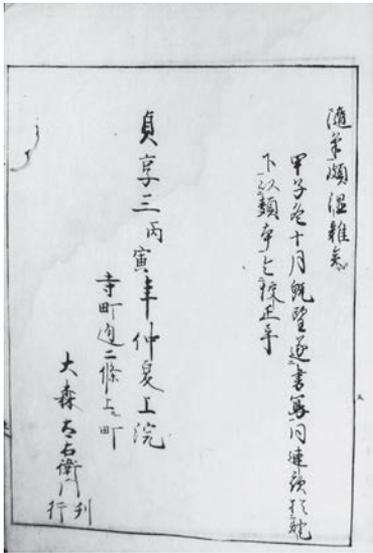
二十五年年度报告書「文化現象としての

源平盛衰記」研究—文芸・絵画・言語・

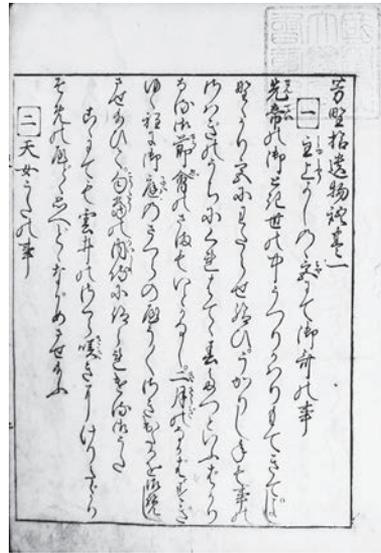
歴史を総合して—』平成26年3月）



達磨屋五一印記



刊記



卷一冒頭

【3】芳野拾遺物語 貞享三年版（一六八六）

（九一三・四八／四／（一）〜（三））

〈外 題〉「よし野拾遺 上」、「よしのしうゐ 中」

「芳野拾遺 下」

（表紙中央後補單辺題簽）

〈内 題〉「芳野拾遺物語卷一」

「芳野拾遺物語二」

「芳野拾遺物語卷第三」

〈目録題〉「芳野拾遺物語卷一」

「芳野拾遺物語卷第二」

「芳野拾遺物語卷第三」

〈尾 題〉「一卷終」、「芳野拾遺物語卷第二終」

卷二ナシ

〈卷 冊〉三卷三冊

〈残欠状況〉完本 〈保存状況〉良好

〈装 訂〉袋綴（四つ目綴）

〈表 紙〉縹色地布目型押文様（原装）

〈表紙寸法〉縦二二・七糎×横一六・二糎

〈見返し〉本文共紙 〔料〕紙 楮紙

〈本文用字〉漢字平仮名交じり

〈一面行数〉十一行

〈匡郭〉縦一八・三糎×横二三・九糎（四周单边）

〈版心〉「吉一」(一三) 〔丁付〕

〔吉二百〕 〔丁付〕

〈繪〉卷一13図、卷二11図、卷三12図

〈刊記〉「貞享三<sup>丙寅</sup>年仲夏上浣／寺町通二條上<sup>ル</sup>町／大森太右衛門<sup>行</sup>刊」

〈書入・貼紙〉ナシ

〈印記〉「酒井／氏記」（朱方印・各卷1丁オ）

〔■■■■記〕（朱長方印・各卷1丁オ）

〔三■〕（墨円印・卷一1丁オ）

卷一表表紙見返しに魁星印あり（朱円印）。

〈その他〉卷三卷末に「勘物」あり。『芳野拾遺物語』

は、貞享三年版の他に、貞享四年版、文

政十二年版、天保十二年版、無刊記整版

がある。貞享三年版に続く貞享四年版は、

〈参考〉谷垣伊太雄「名古屋大学岡谷文庫蔵『異本吉野拾遺』について」（『大阪樟蔭女子大学論集』20 昭和58年3月）

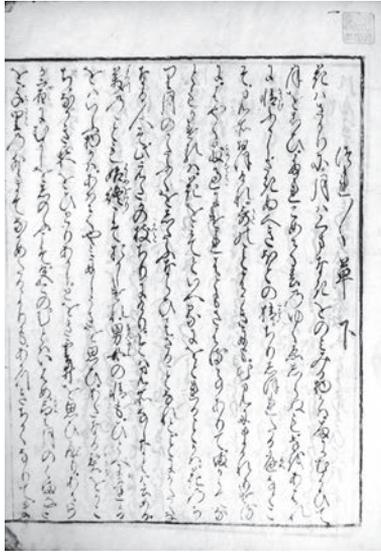
谷垣伊太雄「『芳野拾遺物語』卷三・卷四について」（『吉野拾遺』の研究）（『大阪樟蔭女子大学論集』23 昭和61年3月）

今井正之助「『太平記秘伝理尽鈔』研究」（『汲古書院 平成24年』）

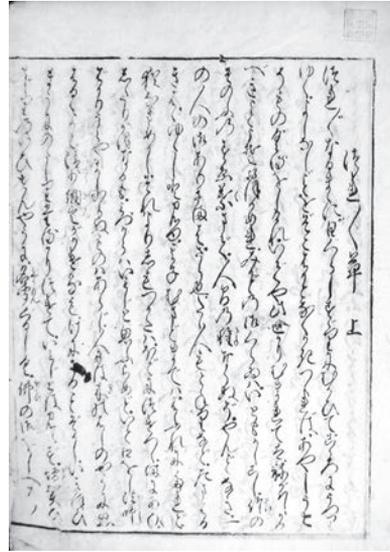
〔付記〕解題作成に当たり、今井正之助氏からご教示を賜わった。記して深謝申し上げる。

を賜わった。記して深謝申し上げる。

大森太右衛門から北村四郎兵衛に書肆を変え、貞享三年版の板木を用いて四巻に仕立て直したものである。貞享三年版は、今のところ本書の他に現存が確認されておらず、後の版の基になったものとして重要な版種である。



下巻冒頭



上巻冒頭

## 【4】徒然草 貞享五年版（一六八八）

（九一四・四五／七／（一）～（二））

〈外題〉 ナシ（題簽剥落跡あり）

〈内題〉 「つれく草 上（下）」

〈目録題〉 ナシ

〈尾題〉 ナシ

〈巻冊〉 二巻二冊

〈残欠状況〉 完本

〈保存状況〉 ややつかれ。虫損あり。

〈装訂〉 袋綴（四つ目綴）

〈表紙〉 縹色無地（原装）

〈表紙寸法〉 縦二六・一糎×横一八・九糎

〈見返し〉 本文共紙

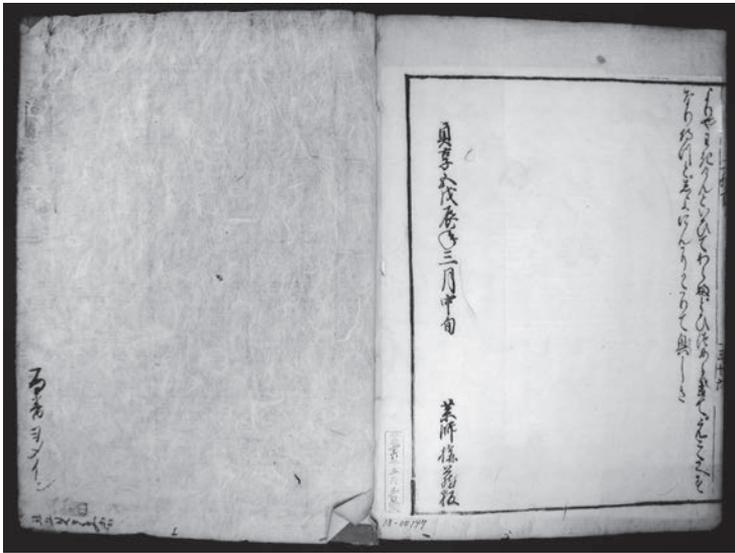
〈料紙〉 楮紙

〈本文用字〉 漢字平仮名交じり

〈一面行数〉 十五行

〈匡郭〉 縦二二・〇糎×横一五・九糎（四周单边）

〈版心〉 「つれ上（下）（丁付）」



刊記

〈絵〉ナシ

〈刊記〉「貞享五戊辰年三月中旬 葉師構蔵板」

〈書入・貼紙〉濁点、読みに関する書入あり（朱書。

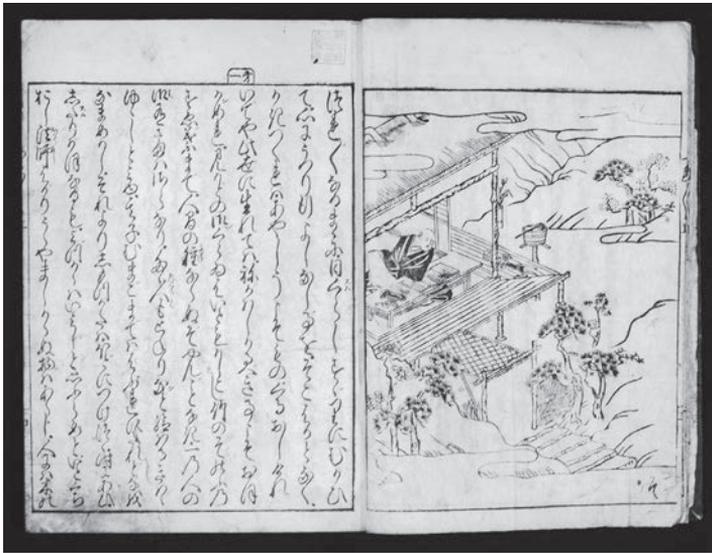
1丁オから2丁オまで。）

〈印記〉「■市」（墨長方印・下巻後表紙見返し）

〈その他〉寛文八年松会版の後刷。

〈参考〉高乗勲『徒然草の研究』（自治日報社

昭和43年）



本文冒頭

## 【5】徒然草 無刊記整版

(九一四・四五／六七／(一)〜(二))

〈外題〉「繪入  
大字」つれ〜草 上(下)「

(左肩原裝双辺題簽)

〈内題〉ナシ

〈目録題〉「つれ〜草卷之上目録(下)」

〈尾題〉「徒然草卷之上終(下)」

〈巻冊〉二卷二冊

〈残欠状況〉完本

〈保存状況〉良好

〈裝訂〉袋綴(四つ目綴)

〈表紙〉紺色無地(原裝)

〈表紙寸法〉縦二二・四糎×横二五・九糎

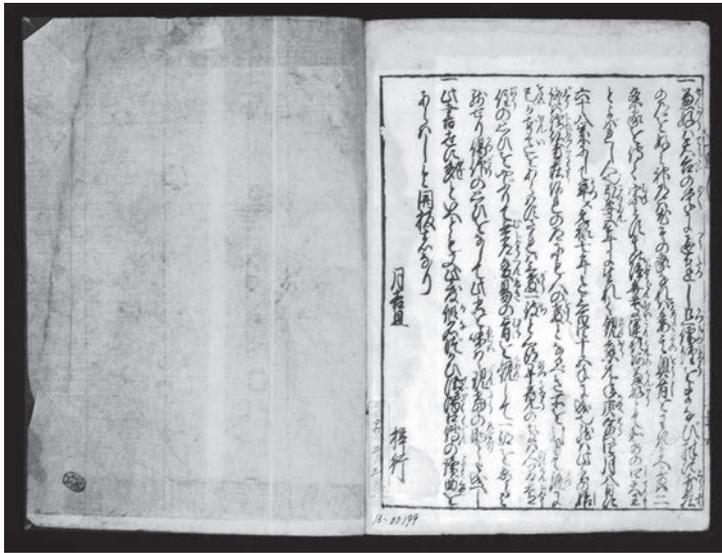
〈見返し〉本文共紙

〈料紙〉楮紙

〈本文用字〉漢字平仮名交じり

〈一面行数〉十一行

〈匡郭〉縦一八・二糎×横一三・七糎(四周單辺)



刊記

〈版 心〉「つれく上目録(下) (丁付)」

「つれく上(下) (丁付)」

〈 絵 〉上巻14図 下巻11図

〈刊 記〉「月吉旦 梓行」

〈書入・貼紙〉ナシ

〈印 記〉未勘一種(朱印・上巻巻末。印面判読不可。)

「山善」(墨楯印・下巻後表紙見返し)

「安」(墨田印・各巻題簽右上)

「安」(墨田印・各巻題簽下)

〈その他〉上巻1丁ウに「卜部系圖」あり。

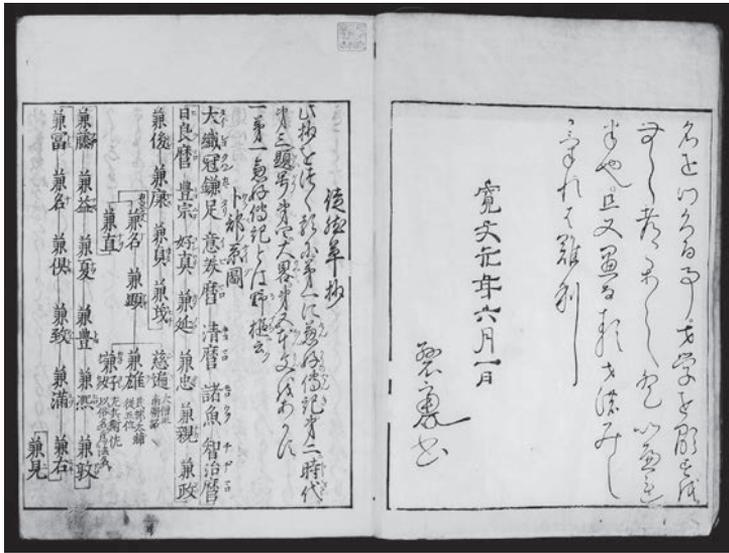
各巻本文冒頭の前丁(目録最終丁ウ)に

兼好図あり(上下巻別の図)。

上欄に章段数を記す。章段数は上下巻別。

〈参 考〉高乗勲『徒然草の研究』(自治日報社

昭和43年)



本文冒頭

【6】徒然草抄 寛文元年版（一六六一）

（九一四・四五／Ka八六／（一）〜（一三））

〈外 題〉「つれ〜くさ抄」（十）

「徒然草抄二（四、六、九、十一、十三）」

「徒然種抄三」

「徒然草抄七」

「つれ〜種抄八」

「つれ〜草抄十二」

（左肩後補無辺題簽）

〈内 題〉「徒然草抄」（第一冊）

〈目録題〉ナシ

〈尾 題〉「徒然之抄卷第一終」

「徒然草抄卷第二終（三）」

「徒然草抄卷四之終」

「徒然草抄卷五終（七）」

「徒然草抄卷之六終」

「徒然草抄卷八上終」

「徒然草抄卷之下一終」

〔徒然草抄下二之卷終〕

〔徒然草抄下卷三終〕

〔徒然草抄卷下四終〕

〔書入・貼紙〕「揃三冊之内／鈴木」

（第二冊後表紙見返し）

第十冊上欄に注釈の書入あり。

〈巻 冊〉 十三冊

〈残欠状況〉 完本

〈保存状況〉 良好。虫損あり。

〈装 訂〉 袋綴（五つ目綴）

〈表 紙〉 紺色無地（原装）

〈表紙寸法〉 縦二七・一糎×横一九・二糎

〈見返し〉 本文共紙

〈料 紙〉 楮紙

〈本文用字〉 漢字平仮名交じり

〈一面行数〉 序八行、総説十三行、本文最大十二行、

注釈最大十九行

〔匡 郭〕 縦二一・〇糎×横一六・八糎（四周单边）

〔版 心〕 ナシ

〔 絵 〕 ナシ

〔刊 記〕 「寛文元年<sup>辛</sup>／霜月吉日 飯田忠兵衛<sup>開</sup>板」

〈印 記〉 未勘一種（朱方印・各冊表表紙見返し）

〈その他〉 卷一冒頭に加藤馨齋の序文あり（序文末尾の日付は「寛文元年六月一日」）。徒然

草本文の前に総説あり（兼好伝記、時代、

第号、大畧の四項目に分類）。跋文の末

尾に「寛文元年九月十五日／馨齋。筆空

（花押）」とある。『徒然草抄』には、同

年記で版元が異なる刷がある（江戸室

町三丁目 惣兵衛<sup>開</sup>板）。

〈参 考〉 高乗勲『徒然草の研究』（自治日報社

昭和43年）



徒然草本文冒頭

【7】徒然草集説 元禄十四版（一七〇一）

（九一四・四五／Ka五五／（一）（一五））

〔外 題〕〔和漢正説徒然草集説 一（一五）〕

（左肩原装双辺題簽。第十一・十二・十五

冊は後補書題簽。）

〔内 題〕〔徒然草集説上卷之二〕

〔目録題〕〔徒然草集説上卷之二目録（一八）〕

〔徒然草集説下卷之一目録（一七）〕

〔尾 題〕〔徒然草集上卷之一終（一八）〕

〔徒然草集説下卷之一終（一六）〕

〔徒然草集説下卷之七終<sup>大尾</sup>〕

〔卷 冊〕二卷十五冊 〔残欠狀況〕完本

〔保存狀況〕良好。虫損あり。裏打補修箇所あり。

〔装 訂〕袋綴（四つ目綴）

〔表 紙〕縹色無地（原装）

〔表紙寸法〕縦二五・五糎×横一八・五糎

〔見返し〕本文共紙

〔料 紙〕楮紙 〔本文用字〕漢字平仮名交じり

〈二面行数〉不統一

〈匡郭〉縦二三・二種×横一七・三種（四周单边）

〈版心〉「徒然草集説卷之上」（〜八）（丁付）

「徒然草集説卷之下一」（〜七）（丁付）

〈絵〉図説あり

〈刊記〉「元禄十四<sup>辛</sup>年／十一月吉日／皇都書肆

／吉田四郎右衛門／河南四郎右衛門／田

中庄兵衛／谷口七左衛門」

〈書入・貼紙〉句点あり（朱書）。朱引あり。語釈に

関する書入あり（朱書）。各冊表紙右

上に冊数の書入あり（朱書）。第一冊

右上に「共十五冊」と書入あり（朱書）。

〈印記〉「野田」（朱印）・各冊1丁才

〈その他〉各段ごとに先行する注釈書を用いて記す

「二段之大意」を置く。『徒然草集説』は、

本版の他に、同年の刊記で書肆が異なる

刷がある（吉田四郎右衛門・武村新兵衛・

田中庄兵衛・谷口七左衛門・上村次良右

衛門）。

〈参考〉高乘勲『徒然草の研究』（自治日報社

昭和43年）

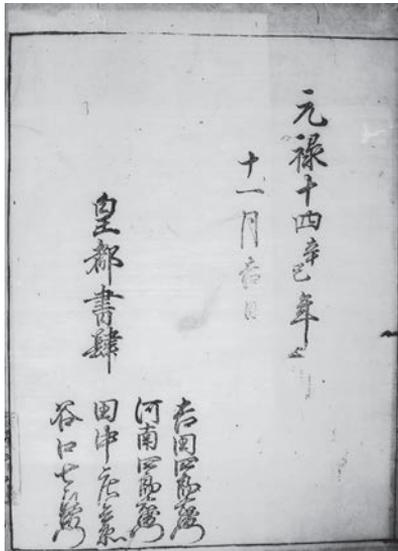
川平敏文「舌耕徒然草―『諸抄大成』以

後諸注釈の展開―」（『雅俗』2 平成7

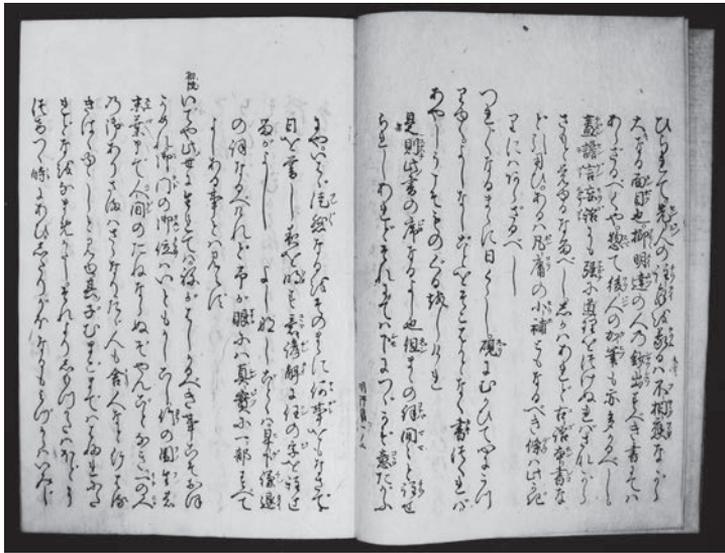
年1月）

市古夏生「近世における重板・類板の諸

問題」（『江戸文学』16 平成8年10月）



刊記



徒然草本文冒頭

【8】徒然草明汗稿 享保十二年版（一七二七）

（日本文学資料室九一四・四五／丁a五六）

〈外題〉

「徒然草奥儀抄」  
明汗稿 徒然草奥儀抄 一（一五）  
明汗稿 左肩原装双辺題簽

〈序題〉

「徒然草明汗稿序」

〈内題〉

「徒然草明汗稿一（一五）」

〈目録題〉

ナシ

〈尾題〉

「徒然草明汗稿一終」  
 「徒然草明汗稿二終（三・四）」  
 卷五ナシ

〈巻冊〉

五卷六冊

〈残欠状況〉

完本

〈保存状況〉

良好。虫損あり。

〈装訂〉

袋綴（四つ目綴）

〈表紙〉

縹色無地（原装）

〈表紙寸法〉

縦二六・六糎×横一八・六糎

〈見返し〉

本文共紙

〈料紙〉楮紙

〈本文用字〉序跋漢字、本文漢字平仮名交じり

〈二面行数〉序跋七行、本文十二行

〈匡郭〉ナシ（字高・約二〇・〇糎）

序跋冊『徹斎夜話』

縦二〇・二糎×横一五・〇糎（四周单边）

〈版心〉「明汗稿一（丁付）」（五）

「徹齋夜話」（丁付）（序跋冊）

〈絵〉ナシ

〈刊記〉「享保十二<sub>丁</sub>未<sub>末</sub>歲孟春吉日／大坂三休橋清

水町角／本屋又兵衛<sub>求</sub>版」

〈書入・貼紙〉ナシ

〈印記〉ナシ

〈その他〉高屋近文著。序跋冊に正徳五年高屋近文

自序、正徳六年三月下旬田中光世序、正

徳六年夏海南散人手書跋文あり。同じく

序跋冊に『徹斎夜話』の一篇を載せる。『徒

然草明汗稿』は、全段に亘って『徒然草』

の内容に批判を加えている点に特徴がある。

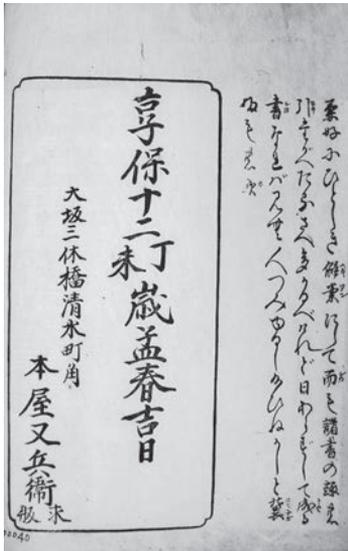
〈参考〉高乗勲『徒然草の研究』（自治日報社

昭和43年）

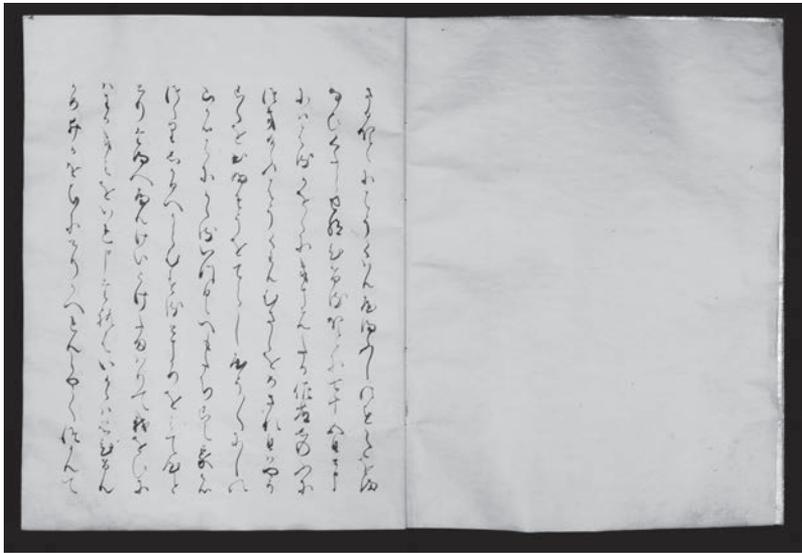
川平敏文「舌耕徒然草―『諸抄大成』以

後諸注釈の展開―」（『雅俗』2 平成7

年1月）



刊記



本文冒頭

【9】 やしま 奈良絵本

(貴四三九四〜四三九五)

〈外 題〉「やしま 上」〔表紙中央原裝朱色地金

泥霞)

〈内 題〉ナシ

〈目録題〉ナシ

〈尾 題〉ナシ

〈巻 冊〉二帖

〈残欠状況〉完本 〈保存状況〉良好

〈装 訂〉列帖装

〈表 紙〉香色地金糸竜窠文様 (裂・原裝)

上帖に押し八双あり。

〈表紙寸法〉縦二三・一糎×横一七・〇糎

〈見返し〉金地布目型押文様

〈料 紙〉斐紙 (金泥下絵あり)

〈本文用字〉漢字平仮名交じり

〈二面行数〉十行 〈字 高〉約一八・〇糎

〈 絵 〉上帖5図、下帖6図



下帖第6図  
忠信、吉野山で奮戦する。



下帖第1図  
教経、義経に矢を射掛けようとする。

〈奥書〉ナシ 〔書写年代〕寛文・延宝頃

〈書入・貼紙〉ナシ 〔印記〕ナシ

〈その他〉箱蓋裏に「やしま式冊キ井キ■」との墨

書あり。

幸若舞曲『やしま』の奈良絵本。本書の本文は、寛永整版本や屋島寺本に近い。

一方、挿絵については寛永整版本と一部近い構図の場面もあるが、両者の間に直接的な影響関係は見られない。下帖第6図の吉野山で忠信が奮戦する場面は、今のところ他の伝本にはない。

〔参 考〕泉万里「幸若舞曲「八島」とその絵画」

〔大和文華〕113 平成17年3月

山本岳史「國學院大學図書館所蔵奈良絵本『やしま』解題」(松尾葦江編『平成二十五年年度報告書「文化現象としての源平盛衰記」研究—文芸・絵画・言語・歴史を総合して—』平成26年3月)



曾我兄弟、頼朝の陣屋に切り込む。

【10】十番切絵巻

(貴四三九六)

〈外題〉ナシ (金地題簽あり。書名ナシ。)

〈内題〉ナシ

〈目録題〉ナシ

〈尾題〉ナシ

〈巻冊〉一軸

〈残欠状況〉零本

〈保存状況〉良好。虫損あり。

〈装訂〉卷子装

〈表紙〉縹色出繋ぎ型押文様 (原装)

〈紙高〉三七・七糎

〈見返し〉銀地

〈料紙〉楮紙

〈本文用字〉本文ナシ

〈字高〉本文ナシ

〈絵〉あり

〈奥書〉ナシ



犬坊、曾我五郎を打擲する。

〈書写年代〉江戸時代中期

〈書入・貼紙〉ナシ

〈印記〉「光／起」

(朱印・末尾)

〈その他〉幸若舞曲『十番切』の絵巻。本絵巻は、

曾我兄弟が頼朝の陣屋に攻め込む場面から始まり、工藤祐経の嫡子・犬坊が捕らえられた曾我五郎時宗を打擲する場面で終わっている。巻末に江戸時代前期の絵師、土佐光起(一六一七～一六九二)の印記がある。

〈参 考〉大月千冬「明星大学所蔵『十番切』絵巻

の図様について」(『平成19・20年度科学研究費補助金研究成果報告書 物語絵画における武士―表現の比較研究と作例のデータベース化』平成21年3月)



土佐光起印記



上巻第1図 法皇の御前での扇合せ。



上巻第2図 中將、大臣殿に對面する。

## 【11】 貴船の本地 奈良絵本

(貴四四三〇〜四四三一)

〈内 題〉 ナシ

〈目録題〉 ナシ

〈尾 題〉 ナシ

〈巻 冊〉 二冊

〈残欠状況〉 完本 (上巻冒頭数丁本文の欠落あり)

〈保存状況〉 つかれ。裏打補修済。

〈装 訂〉 袋綴 (四つ目綴)。横本。角裂あり。

〈表 紙〉 金茶色地花立涌文様 (裂・改装)

〈表紙寸法〉 縦一五・〇糎×横二三・五糎

〈見返し〉 金切箔散らし (後補)

〈料 紙〉 斐楮交ぜ漉きか

〈本文用字〉 漢字平仮名交じり

〈一面行数〉 十三行

〈字 高〉 約一三・〇糎

〈 絵 〉 上巻6図、下巻7図

〈奥 書〉 ナシ



下巻第7図 中將、姫君と夫婦の契りを結ぶ。

〈書写年代〉江戸時代前期

〈書入・貼紙〉ナシ

〈印記〉ナシ

〈その他〉『貴船の本地』の諸本は、大きく三つの

系統に分けられる。本書は第I類に分類される。下巻第7図の格子の絵、襖の絵の箇所顔料の剥落がある。顔料の剥落箇所の下には、それぞれ「かうし」、「はり付」との指示書きがある。

〈参考〉『室町時代物語大成補遺 一』（角川書店

昭和62年）

松本隆信『中世における本地物の研究』

（汲古書院 平成8年）

『京都大学蔵 むろまちものがたり 九』

（臨川書店 平成15年）



赤鬼と唐櫃

【12】百鬼夜行絵巻 真珠庵本系統写本

(貴四四二九)

- 〈外題〉ナシ
- 〈内題〉ナシ
- 〈目録題〉ナシ
- 〈尾題〉ナシ
- 〈巻冊〉一軸
- 〈残欠状況〉完本
- 〈保存状況〉良好。虫損あり。裏打補修済。
- 〈装訂〉卷子装
- 〈表紙〉縹色地金糸牡丹唐草文様(裂・原装)
- 〈紙高〉二六・一纏
- 〈見返し〉金地
- 〈料紙〉楮紙
- 〈本文用字〉本文ナシ
- 〈一面行数〉本文ナシ
- 〈字高〉本文ナシ
- 〈絵〉あり



火の玉と逃げ行く妖怪

〈奥書〉ナシ

〈書写年代〉江戸時代後期

〈書入・貼紙〉冒頭料紙裏に貼紙あり（昭和に入ってからのもので）。

〈印記〉ナシ

〈その他〉いわゆる真珠庵本系統の一本。ただし、本絵巻と真珠庵本は図像の配列が大きく異なる。

〈参考〉小松和彦『百鬼夜行絵巻の謎』（集英社文庫 平成20年）

『人間文化研究機構連携展示 百鬼夜行の世界』（人間文化研究機構 平成21年）



かみきり

【13】百鬼夜行絵巻 宮脇通赫画本

(貴四四二八)

〈外題〉ナシ

〈内題〉ナシ

〈目録題〉ナシ

〈尾題〉ナシ

〈巻冊〉一軸

〈残欠状況〉完本

〈保存状況〉つかれ。後半の料紙下部に欠損あり。

〈装訂〉卷子装

〈表紙〉白鼠色地氷割れ文様(原装)

〈紙高〉二六・三糎

〈見返し〉ナシ 〔料紙〕楮紙

〈本文用字〉本文ナシ 〔二面行数〕本文ナシ

〈字高〉本文ナシ 〔絵〕あり

〔奥書〕「明治三十年春三月應ノ龍穩寺住職ノ田

中道圓師之雅需寫之ノ南海道人宮脇通赫

〔宮脇ノ通赫〕朱方印



ふらり火

〈書写年代〉明治三十年（一八九七）

〈書入・貼紙〉ナシ 〔印 記〕ナシ

〈その他〉いわゆる真珠庵本系統の一本。ただし、

真珠庵本には見られない「かみきり」や

「がごぜ」、「ふらり火」が描かれている。

これらの妖怪を含む伝本に、国立歴史民俗

博物館蔵狩野洞雲（一六二五）

一六九四）筆『百鬼夜行図』があるが、

本絵巻とは図像配列が異なる。料紙を薄

墨で彩色し、夜の場面であることを表現

している。宮脇通赫（一八三四～一九一四）

は、幕末から明治にかけて活躍した愛媛

県人。『大日本分国輿地図』、『伊予温故録』

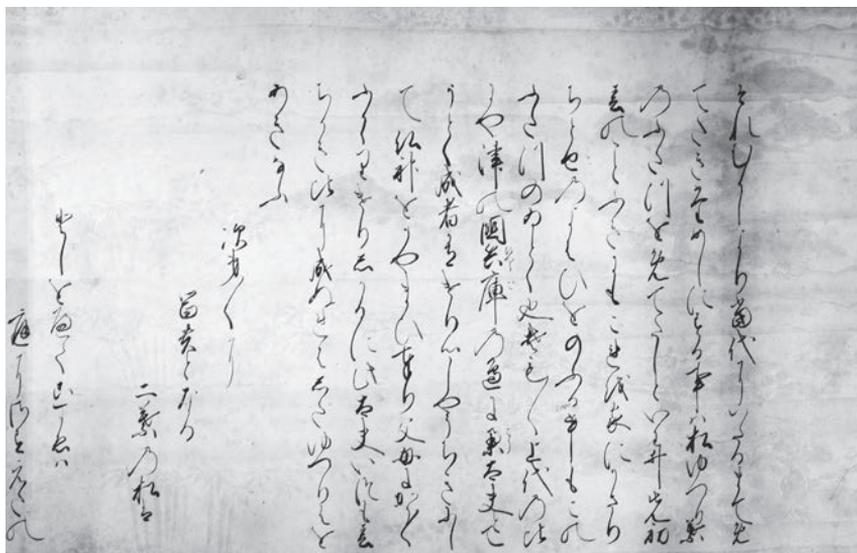
などの著作がある。

〈参 考〉小松和彦『百鬼夜行絵巻の謎』（集英社

文庫 平成20年）

『人間文化研究機構連携展示 百鬼夜行

の世界』（人間文化研究機構 平成21年）

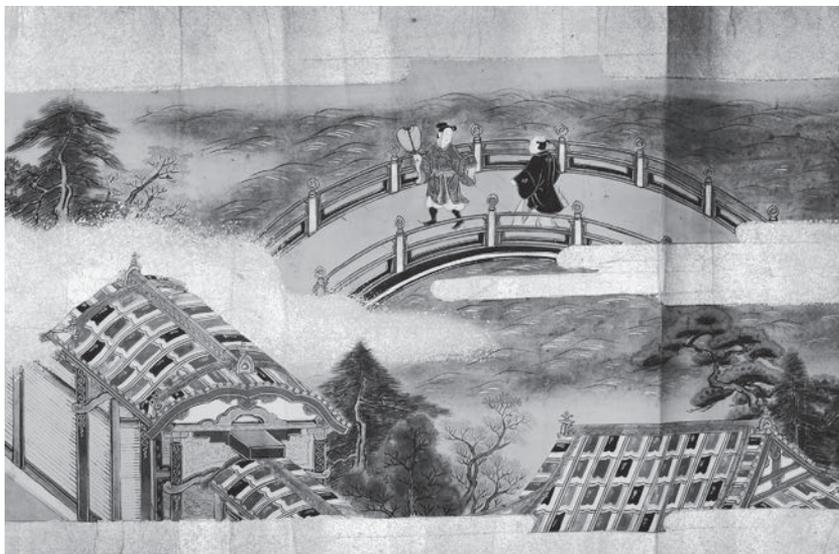


本文冒頭

## 【14】松ゆつり葉絵巻

(貴四三九六)

- 〈外 題〉ナシ (金地題簽あり。書名ナシ。)
- 〈内 題〉ナシ
- 〈目録題〉ナシ
- 〈尾 題〉ナシ
- 〈巻 冊〉一軸
- 〈残欠状況〉完本
- 〈保存状況〉良好
- 〈装 訂〉卷子装
- 〈表 紙〉焦茶色地花丸文様 (裂・原装)
- 〈紙 高〉三二・八糎
- 〈見返し〉金地
- 〈料 紙〉斐紙 (金泥下絵あり)
- 〈本文用字〉漢字平仮名交じり
- 〈字 高〉約二六・五糎
- 〈 絵 〉 10 図
- 〈奥 書〉ナシ (書写年代) 寛文・延宝頃



第4図 童子、業太夫を異界の内裏へ案内する。

〈書入・貼紙〉ナシ 〈印 記〉ナシ

〈その他〉浅井了意著『大倭二十四孝』（寛文五年

刊）卷四「業太夫」を絵巻化したもの。

本絵巻は、『大倭二十四孝』『業太夫』と話の大筋は変わらないが、随所に本文の異同がある。挿絵は版本と構図が近いものもあるが、両者の間に直接的な影響関係はない。東京大学総合図書館に寛文・延宝頃の奈良絵本『大倭二十四孝』（六帖）があることが報告されている（未見）。

〈参 考〉『近世文学資料類従 仮名草子編三・四』

（勉誠社 昭和48年）

橋本直紀「〈資料紹介〉『大倭二十四孝』の単行板―『二の宮花満』について―」

（『関西大学国文学』59 昭和57年12月）

『浅井了意全集 仮名草子編二』（岩田書院 平成23年）